

昭和42年度 和歌山県文化賞

きの した かつ み
木 下 克 巳

住 所：和歌山県和歌山市

出 身 地：和歌山県海南市

生 年：明治38年

■ 職業

洋画家

◎業績及び経歴

昭和5年東京美術学校卒業後、和歌山市立第一高女を振り出しに教職にあること34年。その間、橋本高女、和歌山中学、戦後は桐蔭、星林各高校に歴任して生徒の指導にあたり、本県の美術教育に多大の貢献をなし、昭和28年以来和歌山市美育協会委員長、同31年以来県美育連盟委員長として昭和40年まで活躍し、人格円満、後輩からも厚く信頼されている。氏は本県の美術教育界の中心的存在であるのみならず、県展、和市展の審査員として、昭和42年4月以来は県美術家協会会長として一般社会人の美術への関心を高める上でも大きな業績を残している。

氏は教職のかたわら、文展、日展、その他の展覧会に出品して数多く入選、入賞しているが、わけても昭和16年文展特選の「蛾」は今もこの道の人々に忘れられぬ印象を与えている。戦後示現会が発会されると会員に推挙され、次々に後輩をこの会に送っている。

昭和17年県教育会から多年芸能教育振興につくした功と、文展特選の栄誉をたたえて表彰を受け、更に同27年美術振興の功労により、同36年教育功労者としてそれぞれ県教育委員会から表彰されている。

なお、昭和40年6月渡仏、パリーに滞在ヨーロッパ各国を廻り、さらに視野をひろめて翌年5月帰朝した氏の活躍は今後も大いに期待される。